千葉県の経済動向（2020 年 8 月中）

株式会社ちばぎん総合研究所

現在の景気：県内景気は、コロナ禍による落ち込みからの持ち直しの動きが続いている。小売販売は 5 月を底に売上の減少幅が縮小しているほか、観光施設の入り込みも徐々に回復している。ただ、感染再拡大への懸念などから、回復ペースは緩やかなものとなっている。建設需要は、ホテルなどでの先行き懸念が高まっているが、足許の工事量は高水準を維持している。製造業では、自動車などで生産体制が正常化に向かい、受注・生産も回復している。これまでの県内景気牽引要因、すなわち、①建設や食品製造業などの企業業績堅調、②交通インフラ整備関連などの豊富な官民プロジェクト、③災害復旧・復興工事需要、などに大きな変化はなく、先行きは緩やかな回復軌道を辿ることが期待されるが、感染拡大とのバランスでは、先行きなお不透明感が強い。

3 か月程度の見通し：経済活動の正常化が進む一方、感染再拡大への懸念も強く、新型コロナウイルスの感染範囲・終息時期に左右される展開が当面は続く。

個人消費： ①回復基調。②7 月の県内百貨店（存続店ベース）の売上は前年同月比 15.0%減（10 か月連続で前年割れ）となり、マイナス幅の縮小はコロナ感染者の再増加や長梅雨の影響などから、6 月（同 15.3%減）比小幅に止まった。8 月も猛暑から外出を控える傾向が続くなど、大きくは改善していない模様。7 月の自動車販売台数は前年同月比 13.6%減となり、6 月（同 22.4%減）から減少幅が縮小した。一般乗用車は前年同月比マイナスが続いたが（同 26.7%減）、軽乗用車は 4 か月ぶりにプラスに転じた（同 3.8%増）。

住宅建築： ①一進一退。②7 月の新設住宅着工戸数は、前年同月比 12.8%減少し、2 か月連続で前年を下回った。持家（同 2.9%増）は増加したが、分譲（同 20.5%減）、貸家（同 17.7%減）は減少した。

設備投資：①減少。②国土交通省の「建設着工統計」（非居住用）によると、7 月の工事床面積（年度累計）は前年同期比 37.8%減少し、工事予定額（同 16.8%減）も減少した。千葉経済センターによる県内企業 229 社アンケート調査（7 月実施）では、20 年度の計画は、19 年度実績額を 20.0%下回っている。

公共工事：①増加。②7 月の県内公共工事請負額（年度累計）は、前年同期比 5.9%増加した。国（同 25.2%減）、県（同 17.4%減）は減少したが、独立行政法人（同 27.8%増）、市町村（同 2.4%増）は前年を上回った。

輸出：①減少。②7 月の成田、千葉、木更津 3 港合計通関輸出額は、前年同月比 8.3%減と 5 か月連続で減少した。成田空港では、スイス向け非鉄金属（同 41.5%増）が増加したものの、米国向け内燃機関（同 50.0%減）や医薬品（同 36.4%減）などの減少により、同 6.2%減と 5 か月連続で前年を下回った。千葉港は、石油製品（同 42.2%減）、有機化合物（同 36.1%減）、鉄鋼（同 30.5%減）などが減少し、同 33.5%減と 3 か月連続で前年を下回った。木更津港は、鉄鋼（同 39.4%減）や自動車（同 29.7%減）の減少により、同 38.2%減と 4 か月連続で前年を下回った。

生産活動： ①一進一退。②6 月の県鉱工業生産指数（季調済）は、86.9 と 4 か月ぶりに上昇した。主力の化学工業（前月比 4.0%減）は減少したが、食料品工業（同 6.7%増）、石油・石炭製品工業（同 8.4%増）などが増加した。

観光： ①回復基調。②お盆期間は、帰省や遠出の自粛により JR 特急列車県内区間の利用客が前年比 82%減となる一方、千葉市動物公園では来園者数が同 2 倍以上、鴨川シーワールドでは事前予約制のチケットが売り切れるなど、近場のレジャー施設への来園が目立った。

雇用情勢： ①悪化。②7 月の有効求人倍率（季調値）は、0.88 倍（前月比 0.05 ポイント減）と 7 か月連続で低下した。求職者数（同 8.4%増）、求人数（同 2.2%増）ともに増加した。

【トピックス】

・8 月 27 日、千葉県は、感染拡大の防止と社会経済活動の両立を目指す「ちばと一緒に！」キャンペーンを開始した。「新しい生活様式」の実践・定着を推進する一方で、宿泊者優待をはじめとする観光プロモーションや県産農林水産物の販売促進など、県内産業の回復に向けた取り組みを支援する。